



Fig. 2. *Neanotis rhombicarpa* Yamazaki. 1. Flower, $\times 12$. 2. Corolla opened, $\times 12$. 3. Capsule, $\times 9$. 4. Pollen with 10 colpi and a thick sexine in polar view, $\times 560$. 5. Seed, $\times 20$.

芽孔をもつのでハシカグサ属のものである。ひし形の果実をもつものはハシカグサ属に知られていないので、新種と考えられる。日本のハシカグサは一般にフタバムグラ属として扱われているが、花粉の性質から別属として扱うのが妥当である。フタバムグラ属のものでは花粉は3または4個の発芽孔をもつ。ただ花粉の形態は著しく異なるが、林縁に生え、全体が軟弱である以外にはフタバムグラ属とあまり形質の差異がないので、両者をどう関係づけるべきかは検討する必要がある。

□ Samuel Sprunger (ed.): **Orchids from Curtis's Botanical Magazine** 525 pp. 1986. Cambridge University Press, Cambridge. ￦85. この本は1787-1948年に Curtis's Botanical Magazine に収載された植物画のうちからラン科植物1200種を選んで1冊にまとめたものである。図版頁に先だって Curtis's Botanical Magazine の歴史、画家の紹介及び文献リストがあり、巻末には1787-1983の間に Curtis's Botanical Magazine に収載されたラン科植物の学名のリスト(シノニムを含む)と索引が付されている。植物の配列は属のアルファベット順で目的の植物をみつけるのが容易である。ただし、この本では図だけなので各植物の記載を読みたいときには、各図に付された番号をたよりにオリジナルにあたらなければならない。Curtis's Botanical Magazine は植物分類学の重要な文献の1つであることは言うまでもないが、また、その植物画は形が正確で、色彩や線も洗練されており、芸術的にも価値のたかいものである。このようにラン科だけを1冊にしたので、世界のラン愛好家はもちろんのこと、植物愛好家や植物画に興味のある人達にとってもたいへん楽しい本だと思う。

(寺林 進)